

コンサ百年の森づくり実行委員会

支笏湖周辺国宥林の中の11.63haがコンサ百年の森。約8,000本が植樹され、現在も協力団体が下草刈りなどの育樹作業を継続して行っている。



〈コンサ百年の森づくり実行委員会〉は、株式会社コンサドーレが行っている社会貢献事業のひとつ。サッカーチームの運営法人らしいアプローチで、啓発活動や募金集めを行っています。

スタートは倒木の森の植林

未来の子どもたちに豊かな緑を残したいと平成20年に発足した同会。初年度に取り組



んだのは、その4年前の台風18号により倒木被害を被った支笏湖周辺の森の植林でした。そのエリアを「コンサ百年の森」と名付け、北海道森林ボランティア協会の協力を得ながら、3年間サポーターらと植樹会を行いました。

次年度からは「コンサ百年の森」を会場に、小学生対象の「森の教室」を実施。専門家のお話や植栽用再生紙ポットのカメラネットンを使った苗木づくりを通して、森と森に住む生き物について理解を深める機会を毎年提供しています。

選手と交流しながら森づくり

同会の活動の特色は、運営するサッカーJ2チームの「北海道コンサドーレ札幌」に所



属する選手たちが参加している点。植樹会や森の教室は選手たちと交流できる場としても人気を集め、森づくりに参加する子どもたちにプラスアルファの喜びを与えています。さらに、試合会場では東日本大震災の被災地復興支援と併せて、コンサ百年の森活動の募金も呼びかけ。アウェイの地でもサポーターのあたたかな浄財が集まり、その金額は同社のウェブサイトでその都度報告されています。

新生コンサでも活動を継続

チームマスコットの「ドーレ

くん」は、絶滅危惧種のシマフクロウがモチーフ。試合プログラムや月刊誌などでは、コンサ百年の森づくりによる生物多様性の保全と地球温暖化の防止で、シマフクロウが生息し続けられる自然環境を守ろうと訴えています。

20周年を迎える今年、社名とチーム名を現名称に変更し、札幌市のみだったホームタウンを札幌市を中心とする北海道全域へと拡大しました。新たな気持ちでJ1昇格の目標に挑む新生コンサドーレですが、同会の活動は変わらず継続の予定です。



林業技士の資格制度は昭和53年に始まり、これまでの登録者数は約1万3000名。うち1割以上が北海道在住者です。同会は日本林業技士会の北海道支部を兼ねるかたちで、会員相互の連絡・協調・資質の向上、地域の森林整備への技術支援、市民・中高生の森林環境教育を活動目的に掲げ、平成10年に設立されました。

〈北海道林業技士会〉は、森林の技術資格「林業技士」を有する森のプロフェッショナルの集まり。日々の研さんで高めた技術と知識で、地域の森づくりや環境教育を支援しています。

専門の技術と知識で森をPR

構成は正会員130名と賛助会員14団体。35歳から88歳までと会員の層は厚く、活動も会報や書籍による情報発信のほか、「キリン千歳水源の森」「ENEOSの森」「カルビー・ミナミナの森」といった法人が育林を進めている森の整備、小学校の自然体験学習への講師派遣など、多岐にわたります。

一般向けの自然観察会が好評

幅広い活動の中でも特に会員の力が入るのは、専門家としての知見を伝える環境教育。一般市民を対象とした野幌自



然公園観察会では、野幌自然休養林をフィールドに、この森が形成された歴史や森林が持つさまざまな機能を地域の方々に解説し、森と林業の重要性を伝えています。観察ルートには、明治後半から大正初めにかけて植栽さ



れた外国樹種を含むさまざまな樹木が今も生育。散策路脇には草花やシダ類、沢筋には樹齢200年を越す大木もあり、森林浴をしながら生物の多様性を体感でき、自然環境について学びを深める格好の機会となっています。

森歩きのガイドブックも刊行

同会は観察会と並行して、野幌自然休養林の植物調査も行っています。昨年4月、蓄積してきた観察と調査の成果を『自然観察ガイドブック 野幌自然休養林―森へのいざない』と題して書籍化しました。150ページにも及ぶ誌面には、会員が撮りためた写真もふんだんに掲載し、長年の活動の集大成となりました。